

嬉望

令和6年度 第2号

兵庫教育大学教職大学院
学校経営コース
編集部（田中、堀井）

「嬉望」は、本学加東キャンパスが嬉野台地区にあることと、「希望」とをかけた造語です。



学校経営コース紹介

学校経営コース

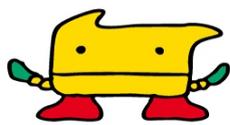
教務担当教員より

准教授 安藤 福光

学校経営コースのカリキュラムの特徴として、学際的な構成になっていることが挙げられます。教育経営学、教育行政学、教育法学、カリキュラム研究など、学校経営に関わる諸学問がカリキュラムとして用意されています。またそれを個別バラバラに学ぶだけでは終わりません。課題研究（ⅠからⅢ）やインターンシップでの学習は、諸学問を横断的に捉えたり、学問と実践とを架橋したりすることを意図しています。このような学びを通して、皆さんには学的基盤に立った学校経営や教育行政の実践者になることが

期待されています。

こうした学びを、一年間もしくは二年間されてみて、ご自身の成長の実感はいかがでしょうか。「まだまだ」「手ごたえあり」「モヤモヤ」「ハレバレ」と色々な実感があると思います。隣の芝生は青く見えるかもしれません。けれどもご自身の中の成長をぜひ振り返っていただければと思います。その振り返りを通して、また新たな見通しを立てていただければと思う次第です。



ひょうちゃん

兵庫教育大学
マスコットキャラクター

大学院での学び

後期授業を終えて

「あつという間の半年」

兵庫教育大学附属中学校
今村 彰宏（フ・二）

勤務しながらの二年間でしたが、先生方、同期をはじめとした院生、その他授業や研究を通じ、多くの方に出会い、様々な刺激を受けながら、二年間目を終えることができました。特に二年の後期は、これまで意識したことのない視点から考える度に、見方が変わっていく感覚がありました。教育や学校のあり方について、学校全体を見通した視点から考えることができるようになり、私自身の中で大きな転換期となった半年間であつたと感じています。この

学びや経験を生かし、今後も研鑽を積んでいきたいと思えます。本当にありがとうございます。

「教師自身が学び続ける」

呉市教育委員会

スクールカウンセラー
大本 市郎（フ・二）

「学校組織マネジメントによる組織活性化」の講義（外部講師：棚野勝文岐阜大学教授）は、まさに学校現場が抱えている組織マネジメントの課題解決に向けて明確に示唆していただき、腑に落ちた内容でした。

特に、重要な最初の一步は、メンバーに「Why」を伝えることとであり、≡フォレットは「状況の法則」を提唱し、これは、「人は指示命令では動かない。状況の理解と納得で動く」ということで、メンバーを動かすためには、「Why」を語ることで状況を理解してもらうことが重要であるという考え方があり、組織マネジメントの要諦であることやアジャイル方式や心理的安全性について学び、市教委と学校現場の連携強化を再認識しました。

「現場と研究の境界線上で」
加古川市教育委員会

松尾 光隆（フ・二）

P2後期は「学校マネジメントによる組織活性化」「学校危機管理の理論と実践演習」の授業で学ばせていただきました。いずれの授業内容もすぐに現場の学校で活かせるエッセンスが凝縮されており、日々の対応や校長会との連携の場面で活用させていただきました。授業の後半は内容がより専門的となり、一つの課題をクリアするまでに時間がかかりましたが、そのプレッシャーが新たなモチベーションと推進力を生み出してくれました。フレックス生としてこの期間は、現場と研究の境界線上で優先順位が変更される日々の繰り返しで、自分自身の力量が問われる二年間でした。中盤から後半にかけては自分自身の体調のこともあり「一番弱い自分」と対話しながらの学びとなりました。何とかここまで来ることができたのは、周囲の支えがあったからです。ご指導いただいた先生方をはじめ、院生の皆様、お世話になった全ての方々に心より感謝を申し上げます。

本当にありがとうございました。ここでの学びを、いつか現場に戻った時に活かしていきます。

「インプットとアウトプットを繰り返す学び」

兵庫教育大学附属小学校

黒川 達也(昼・一)

教職大学院に入り、早いものでもうすぐ一年が経とうとしています。これまでの学びを振り返ると、前期はインプットを中心とする学びが多かった印象ですが、後期では学びをアウトプットする機会が格段に増えたと感じています。

「学校・教育委員会の経営と財務」や「学校マネジメントによる組織活性化」の授業では、事前に書籍や論文などの文献を読んで各自で作成したレポートをもとに、対話しながら理解を深めるという流れで学びました。毎週のレポート作成に苦戦したこともありましたが、文献からわかったことや考えたことなどをレポートという形で言語化することで理解が深まることを実感しました。また、回を重ねるごとに、文献に書かれて

いる内容から広げて自分の自治体について調べたことと関連付けるなど、それぞれのアウトプットの質も高まり、院生同士互いにより刺激を受けながら学びを深めることができたと感じています。

今後も、インプットとアウトプットの両方を大切に、残り一年の教職大学院の学びを有意義なものにしていきたいと思えます。

「学校危機管理の本質を学ぶ」

兵庫県立神戸聴覚特別支援学校

堀井 雅水(昼・一)

「学校危機管理の理論と実践演習」の講義を受講し、リスクマネジメントの重要性を改めて認識するとともに、新たな学びを得ることができました。これまでの経験を通じて、学校現場における危機管理の基本的な考え方には触れてきましたが、本講義ではより実践的な視点から学ぶことができました。特に、マスコミ対応については想定外の課題が多く、情報開示と説明責任の重要性を強く実感しました。

講義では、近年の民間企業

の危機管理事例をもとに、報道対応のポイントを具体的に学ぶ機会となりました。学校現場においても、不測の事態が発生した際には適切な情報発信が求められ、対応を誤ると社会的信用を失いかねません。そのため、事前にシナリオを想定し、迅速かつ正確に情報を伝える準備の必要性を痛感しました。

今回の学びを通じて、学校危機管理は単なるマニュアル対応にとどまらず、状況に応じた柔軟な判断が求められることを改めて理解しました。今後、実際の現場で危機に直面した際には、学んだ知識を活かし、冷静かつ的確に対応できるように備えていきたいと思えます。

「学校経営の視点を広げる学び」

吹田市教育委員会

坪野 正樹(フ・一)

後期の授業では、「学校・教育委員会の経営と財務」と「カリキュラム・マネジメントと学校のオープン・イノベーション」を受講し、学校経営に

関し、多角的な視点で学ぶこ

とができました。特に、「学校・教育委員会の経営と財務」では、行政の基礎的な部分や教育財政のしくみ等について改めて学ぶことができ、「教育を社会科学的に見る」という視点が得られました。

また、「カリキュラム・マネジメントと学校のオープン・イノベーション」では、特色ある学校をつくっていくためのカリキュラム・マネジメント論について、カリキュラム開発の重要性の視点から学び、教育活動をより豊かにする方法論に触れることができました。

学校現場に戻った際には、これらの学びをいかし、組織全体の成長を目指していきたいと考えています。

「後期の授業での学びを振り返って」

笠 真徳(フ・一)

後期では、五つの講座で学ばせていただきました。

「学校・教育委員会の経営と財務」では、私自身、長年教育行政に勤務しているにも関わらず「教育財政のしくみ」

が分かっていなかったのだと痛感しました。講義では様々な例えを出されながら説明していただき、深く学ぶことができました。

「特別支援教育の対応と方法」では、多くの学びがあり、特に機能的アセスメントに基づくと学校のオープン・イノベーションについては、特学の先生だけでなく、通常学級の先生方にも広げる必要があると感じました。

「カリキュラム・マネジメントと学校のオープン・イノベーション」では、カリキュラムとは何か、教育課程と何が違うのか、学校経営との関係など、学校教育におけるカリキュラムの重要性とそれをイノベートする面白さを学ぶことができました。

「授業におけるICTの活用」では、プログラミングの考え方など、ICT活用の理論とともに「創る」ことを楽しみながら学ぶことができました。

「実践課題研究Ⅱ」では、指導していただいている先生方のおかげで先行事例に基づく研究へと進展することができました。

兵庫教育大学大学院の素晴らしい学びの環境に深く感謝申し上げます。

研究

「改善プラン発表を終えて」

兵庫教育大学附属小学校

阿賀 研介（昼・二）

研究を通して芦屋市の取組について深く知ることができるとともに、学校経営の軸にしたいことも学ぶことができました。イエナプラン教育、自由進度学習に先進的に取り組む学校などを調べることで、教職員・保護者・子どもが一体となるために、「どんな学校にしていくなか」、「どんな子どもを育てていくのか」という理念を共有する大切さを実感しました。理念を共有することで、すべての教育活動の目的が明確になります。学校に関わるすべての人が目的を共有する学校づくりを目指したいと考えました。

実習を受け入れてくださった芦屋市教育委員会。調査に

協力してくださった様々な学校。管理職としての職務の在り方を教えてくださった兵庫教育大学附属小学校。指導にあたってくださった大学の先生方。支えてくださったP2とP1の学校経営コースの方々。自分自身がこのような機会を得たのは、支えてくださったみなさまのおかげであります。本当にありがとうございます。

「二年間の学びを終えて」

兵庫県立こやの里特別支援学校

大川 倫弘（昼・二）

この度は、二年間という貴重な学びの機会をいただき、兵庫県教育委員会をはじめ関係者の皆様に心より御礼申し上げます。誠に有意義な二年間でした。

大学院での学びを通じて、自身の未熟さを痛感するとともに、先人の業績に改めて思いを馳せました。驚馬十駕の精神で、一歩ずつ学びを深めることに努めました。微力ながら自己の成長を願い、懸命に学びに励みました。私は「危機管理」と「教員の学び」を主要な研究テーマとし、「危機

管理」についてはコンプライアンスを中心に研鑽を積み、関連書籍を通じて視野を広げました。「教員の学び」においては、現場で抱いていた問いを明らかにするため、大学の先生方には懇切丁寧なご指導を賜り、現任校の皆様にはアンケート調査等に快くご協力をいただきました。多大なご支援をいただきました。

これらの学びは、私にとってかけがえのない財産です。今後は、大学院で培った知見を兵庫県の教育に活かし、微力ながら貢献していく所存です。

改めて、皆様に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。ございました。

「インターシップでの学び」

兵庫県立宝塚北高等学校

大上 聡（昼・二）

八月二十六日から約二カ月の期間、現任校である兵庫県立宝塚北高等学校において、インターシップを行わせていただきました。

校長シャドウイングなど管理職の職務観察を通して、学校組織の意思決定の流れなど

管理職の考えや行動について学びを深めることができました。学年や学科で異なる動きが多い中、管理職としてそれぞれの活動を把握し、適切に運営していくことの難しさを感じる日々でした。休日に行われた塾主催の学校説明会では、教頭に同行させていただき、学校の広報を通して中学生や保護者の考えに触れることができました。探究活動については、授業の様子を参観するだけでなく、事前の担当者会やフィールドワークにも同席させていただきました。

また、事務長シャドウイングを通して、学校の長寿命化工事など施設管理に向けた調整なども知ることができ、今後に向けて有意義な実習となりました。

このような貴重な経験をさせていただいた、宝塚北高校の教職員の皆様に感謝申し上げます。

「三年目の研究に向けて」

奈良女子大学附属小学校

柊原 貴博（フ・二）

今年度、予定通り三年履修をすることを決めました。こ

の一年のんびりできた反面、研究の進み具合はいまいちです。まだ余裕があるというところが良い方向にも悪い方向にも働いているのが現状です。さて、大学院での研究は、私にとって楽しいものであると同時に自分が何も知らなかったことに気づかされるものでした。質的研究ってどうやって進めるのか、インタビューの方法は、など全く分かっていなかったことについて、一から学んでいる今年度です。

現在は、教員の自主性と学校としてのまとまりの関係について考えているところです。現任校の教職員へのインタビューをすすめているのですが、恣意的にならないようにしつつも相手の考えを引き出していくことが本場に難しくなっています。今年度中に何とか形にしていけたらと考えているところです。まだまだ研究は道半ばですが、焦らずに進めていきたいと思っています。

「私の学びは

まだ始まったばかり」

近藤 直樹（フ・二）
教員人生、ようやくゴール

が見えてきた頃、定年が延長されました。私は「まだ十年働ける」と思い、働きながら学ぶことができるフレックスクラスの門をたたきました。教育の世界で三十年あまり。これまでの経験が理論に裏付けられ、まさに「腑に落ちた」二年間でした。

大学院の学びで最も苦しく、最も楽しかったのが課題研究でした。一年目は課題研究を「しぼることに苦しみました。結局、あれこれ迷うばかりでまとめることができないまま、一年目は終わりました。二年目は迷いながらも実践研究を進めていきました。秋になり、いよいよ研究報告を書き始めなければなりません。自分なりにストーリーを考えて書き進めていくと、一年目に迷っていた課題も様々なところでつながってきて、決して無駄なことはありませんでした。自分の研究は一区切りつきましたが、また新たな課題が見つかりました。大学院での学びは卒業となりますが、大学院で学んだことはまだまだ続いていきます。

「先進校訪問調査」

石部 正則（昼・一）

私は、先進事例調査として、山口県の教育現場を訪問しました。山口県では、総合的な学習の時間を核とした九年間の「学校・地域連携カリキュラム」に全県的に取り組んでいます。今回は、その質を向上させる取り組みについて理解を深めることを目的に訪問させていただきました。調査では、山口県教育庁から施策の背景や行政支援について学び、さらに二校の小学校から実践事例を伺いました。

訪問前に趣旨や質問内容をお伝えしたところ、当日は詳細な資料をご準備いただき、細かい質問にも丁寧に対応していただきました。そのおかげで、「カリキュラムの目的や意義の共有」や「POCAサイクルの構築による継続的な授業改善」など、改善プラン作成に向けた実践的な示唆を得ることができました。こうした学びを得ることができたのも、山口県教育庁や小学校の先生方のご協力、そして山口県をご紹介くださった指導教官の安藤先生のおかげです。さらに、山口県教育

庁の担当者が本コースの修了生であったことも、貴重なご縁でした。こうしたつながりを大切にしながら、今後も研究に励んでいきたいと思えます。

「先進校訪問を振り返って」

兵庫県立飾磨工業高等学校

久内 千佳（昼・一）

現任校の課題について考えるため、「三部定時制のシステム」「学び直し」「工業教育の専門性」などをテーマとして三つの学校を訪問しました。

兵庫県立西脇北高等学校では、生徒が学校独自の検定に取り組むことで学び直しを進めながらボランティア活動への参加で自己有用感を高める取り組みについて、大阪府立布施北高等学校では、「エンパワメントスクール」としての学び直しや「デュアル実習」での社会人基礎力を育てる取り組みについて、三重県立伊勢まなび高等学校では「通級指導」の取り組みや「ものづくり工学科」の教育内容、学科改編時の教員集団の葛藤などについてお話を伺うことができました。三つの学校が似

ているように異なる課題を抱えながら、目の前の生徒の成長や学校の改善に向けて懸命に取り組まれた結果を見せていただいたことへの感謝を忘れず、私も自校の改善につながるように学びを進めたいと思っています。

「大学院での研究」

花井 麻理（フ・一）

十月から十二月にかけて、先進地視察に行ってきました。先進地視察を行うことで、今私が直面している課題を明確にすることができました。自

分の今までの組織イメージが大きく変わり、組織はもっと多様で多元的なものではないかと感じています。今は、多様性や多元性をそのまま受容できる組織イメージを先行研究から探っています。私の研究テーマは学校事務の共同学校事務室です。共同学校事務室がどのように学校経営に寄与するかや、そのための効果的な組織の運営手法が今の中心的な関心事ですが、共同学校事務室のガバナンスの問題、リーダーシップの問題、組織間の相互作用の問題

など、大学院の学びを経て関心の範囲がどんどん広がっています。

最初は、今までの自分の実践を理論や先行事例で批判していくことはとても苦しいことでしたが、そこに真摯に向き合い、新たな視野を得ることが、私にとっての大学院での研究の意味だと感じています。

キャンパスライフ

「二年間の学び」

兵庫県立赤穂特別支援学校
宇都宮ますみ（昼・二）

学校経営コースでの二年間は、学ぶ目的を明確にして把握することからはじまりました。私は特別支援学校の教員であり、特別支援教育が浸透するための新たな方策を考え、追求していくことです。先進校視察やインターンシップでは、自ら意識して「学ぶ」姿勢がないと研究に迷うことがありました。努力が足りないと悲観することもありました

が、指導教員の先生に多くの教えをいただき、何が大切であるか、学びたいことを追求する重要性を教わりました。そして、特別支援教育の根幹である子どもの実態把握の視点と、学校づくりの礎になる方策や組織を考察しました。

特別支援教育の推進のために微力ながらお力になることを目指し、今回の改善プランに到達することができました。至らぬ点が多くあった私を、ご指導いただいた学校経営コースの先生方、院生の皆様、学びを支えてくださった皆様、貴重なご指導をいただきました。心より感謝申し上げます。

「学びの深化と実践への決意」

兵庫県立村岡高等学校

藤野 浩司(昼・二)

大学院での教育実践に関する理論や研究方法の体系的な学びを通じて、私の視野は大きく広がりました。専門分野にとどまらず、他分野の研究や実践にも触れる機会があったことで、多様な視点を持つことができました。これにより、教育現場で直面する様々な課題に対して、より柔軟か

つ多角的に対応する力が養われたと感じています。また、課題研究やインターンシップ、改善プランの作成を通じて、学校教育の現状を多面的に捉え、課題発見や解決力、そして、組織経営力を高めることができました。

新たな気づきや価値観を得ることができたのは、学校経営コースの先生方をはじめ、多くの方々の支えがあったからこそです。共に学び、議論を重ねた仲間の存在も大きな励みとなりました。皆様からいただいたご指導やご助言に心から感謝申し上げます。今後は、大学院で得た知識やスキルを教育現場で積極的に活用し、実践の場で活かしていくことが重要であると考えています。教育現場は常に変化しているため、新たな知識を継続的に習得することが不可欠です。これからも学び続け、教育の質向上に貢献できるよう精進していく決意を新たにしています。このような機会を与えて下さった兵庫県教育委員会に心から感謝申し上げます。

「自己との対話」

小野 耕司(フ・二)

学校管理職として、学校経営とはなんぞや。自分がイメージしている学校経営が正しいのか、これまでにお世話になった管理職の皆様のやり方をトレースすることが正しいのか、常に問いを持ちながら、学校経営に参画しておりました。この二年間、学校経営について学ぶことで、問いが明らかになることがあれば、また問いが現れることの連続でした。その中でも、自分の思い込みや固定概念との対話を繰り返しすることで、新しい発見や道筋が見えたように思います。大学院で学んだことが、すぐに実践で生かせることもあり、自己の成長を実感することができました。幸せな二年間でした。

職場と大学院と家庭のバランスを保つことが本当に変化ではありましたが、研究を進められたことは、職場、家族はもちろんのこと、立場がそれぞれ同期の皆様と教授陣の皆様のご支援のもとここまで来れたことと感謝しております。本当にありがとうございます。これからも、実践

と研究を続けていきます。

「2年間の学生生活を終えて」

フレックスクラス

管理職(フ・二)

学校現場で管理職として勤務しながら、大学院で学ぶという二年間の学生生活も終えようとしています。ときには、宿泊行事の引率と講義が重なり、山奥の通信状況が悪い中から講義に参加させていたこともありました。仕事と学ぶことの両立は大変ではありましたが、一つ一つの講義から得る新たな視点は、とても貴重なものでありました。学んだことを翌日には、学校現場で活かしていくような感覚がフレックスクラスならではのメリットであると感じています。今まで、感覚的に学校経営を行ってきましたが、二年間の学びの積み重ねで、感から論へ変化していったように思います。これも、ご指導していただいた大学院の先生方のおかげと感謝しています。大学院で学んだ学校経営のノウハウをさらに学校現場で活かしていきたいと思っております。皆様方、大変お

世話になりました。ありがとうございました。

「仲間との学び」

谷山 啓史(昼・一)

この一年は、中学校で授業や生徒指導をこなし、その合間に大学院の講義を受けてきました。時間がなく、レポート作成や課題に追われる日々が続きました。学校行事がある際には、土曜に行事、日曜に部活動、月曜に大学の講義・・・、休みなく働いたり勉強したりで心が折れそうになりました。しかし、それでも頑張ってきたのは、共に学ぶ「仲間」の存在があったからです。大学に来ると、同じコースの先生方がいて、共に考え、意見を出し合い、学びを深めることができました。また、院生室では雑談や悩み相談も多く行われています。助け合いながら進んでいく「温かい雰囲気」があります。学校勤務が終わって「E」を開くと、七〇件ものメッセージのやり取りがなされていて、とても驚いたことがありました。それだけ密に連絡を取り合い、

共に歩んでいる証です。
次年度も『仲間がいる』ことを心の支えにしながら、共に成長し続けることを楽しみにしています。

「一年目の学びを終えて」

愛知県 高等学校（フ・一）

学校現場では毎日のように非定型で突発的な対応事項が生じています。その対応事項の範囲は年々拡大し、高度化・複雑化していると感じます。今までの経験則では通用しない諸課題も多く生じています。そのため、諸課題の対応について自分なりの軸となる考え方を身に付けたいと考え、兵庫教育大学大学院学校経営コースの門を叩きました。

一年目の学びを終えたばかりですが、学校経営コースでの学びが、学校経営における諸課題への対応や働き方改革・業務改善等へのアイデアの創出に活きているという実感が大いにあります。学校での業務をこなしながら、平日夜や土日に大学院の授業やレポートに取り組むことは一定の負荷はありますが、大学院の先生方や同じ立場で学んで

いる全国の仲間たちに支えられて、充実した一年になったと実感しています。来年度はいよいよ修了に向けての一年になります。新しい学校づくりへの学びを深めたいと考えています。

「教職大学院での一年目を振り返って」

村田 幸一（フ・一）

教職大学院に入学して早くも一年が経ちました。この一年間は、新しい環境に慣れることから始まり、多くの学びと成長の機会に恵まれた貴重な時間でした。

大学院生活の始まりは、大学のシステムに慣れるのに苦労しました。また講義が始まると、課題の多さに驚きましたが、締め切りに追われながらも何とかこなしていく日々を過ごしました。長期休暇中には、オンデマンド講義を視聴したり、参考資料を読み込んだりと、自主学习の時間を有効に活用しました。

クラスメイトの多くが実務経験豊富な方々で、講義での様々な交流を通じて多様な視点や知見に触れることができ

ました。私立学校出身の私にとって、公立学校の教員や管理職経験者、教育委員会関係者との意見交換は非常に刺激的でした。

この一年間で、学校という組織を多面的に捉える視点が養われました。教育現場における様々な立場や職務の存在を知り、学校運営の複雑さと奥深さを実感しました。自分の教育観や学校に対する認識が大きく広がったと感じています。

「フレックスクラスで拓く新たな教育の未来」

東京都（フ・一）

人生の半世紀という節目を迎え、新たなステージで学びを深めたいと思ひ学校経営コースに入学しました。フレックスコースでは、経験豊かな教授陣の指導のもと、オンラインを最大限に活用し、現代の学校教育の多様な課題について、理論と実践の両面から深く学んでいます。

「先進校視察」では、福島県と熊本県の高校で学校改革に挑む先生方から、地域と学校が一体となり教育の質の向

上を目指す取り組みを学びました。特に、自治体・産業界との連携や外部人材の活用は、次年度の私の「学校改善プラン」に活かしたいと考えています。

神戸キャンパスでの合同授業では、少人数グループで、多様な視点から教育課題を議論し、交流を深めました。ゼミの教授にも職場訪問していただき、仕事と学業の両立をサポートしていただいています。

未来を担う子どもたちが、それぞれの夢に向かって羽ばたけるよう、生涯学び続け、高校教育に貢献していきたいと思ひます。

「一年目を終えて」

小学校（フ・一）

「教室は『社会の縮図』だ」と思うよ。」

初任者として採用された私に先輩教員が語ってくれました。初めての社会人、初めての「教員生活」に戸惑う初任者にとって、「何のために先生になったか」を考えさせる重い言葉でした。あれから三十四年。「目の前の子供がきらき

らひかる未来を生き延びたい。」と願うばかりです。日々の多くの対応を迫られる教員にとって、「問題」の「答え」を急いでしまひ、問題自体は解決していかないのではと思う事があります。時には、冷静になるために、動く社会に対応するために、答え探しをさせることなく、兵庫教育大学の学校経営コースでの学びの一つ一つを、更新し続ける自分であるための大きな学びにしたいと思ひます。

学会

「日本教育経営学会に

参加して」

鳥取県 義務教育学校

宇田 毅（昼・二）

学会への参加がしやすいことも、この大学院での学びの魅力の一つと感じます。私は六月七日から九日まで九州大学で開催された「日本教育経営学会」に参加しました。「学会」と聞くと、敷居が高い気がしていましたが、そんな雰囲気はなく、自分の関心のあ

る研究発表を自由に見ることが
できます。そして、日本の
教育研究の先端を走ってお
られる方々の研究から新たな知
見を得たり、発表後に行われ
る質疑応答から、事象を深掘
りする見方や考え方を学んだ
りできました。また、コース
の授業等で書籍や論文を読む
ことがよくありますが、その
筆者ご本人と出会うことがで
きる（こちらからの一方的な
形でしたが）のも楽しみの一
つかかもしれません。私は発表
者としての参加ではありません
でしたが、学校経営コース
の中にもコースの研究とは別
に、ご自身で関心のある研究
をされて、学会で発表された
方も多々いらっしゃいます。
このような豊かな学びができ
たことに感謝しています。

編集後記

本コースの広報誌をご覧い
ただきありがとうございます。
本コースでは、月に一〜二
度程度、昼間クラスとフレッ
クスクラスの合同授業※を実
施しております。普段顔を合

わせる機会が少ない仲間たち
と交流することができません。
異なる視点やアイデアに触れ
ることで、新たな発見や刺激
を得られる場となっています。
このような多様な学びの場
が、本コースの魅力でもあり
ます。入学を検討されている
皆さんには、この環境で多く
の仲間と共に成長し、新たな
挑戦を楽しんでいただけるこ
とを心から願っています。



アクセス

大阪方面から

JR 神戸線で新長田下車（新快速は神戸で普通に乗換え）
阪急 / 阪神 神戸三宮で JR 普通に乗換え、新長田で下車

姫路方面から

JR 神戸線 で新長田下車（新快速は明石で普通に乗換え）
山陽 板宿で神戸市営地下鉄に乗り換え、新長田で下車

JR 大阪駅よりJR新長田駅まで34分

JR 姫路駅よりJR新長田駅まで51分

新長田駅より徒歩7分



令和7年
4月 神戸キャンパスが
JR新長田駅前に移転します。

神戸市長田区腕塚町5丁目2番1号
新長田キャンパスプラザ6～8階

